

6-3 3/6の指導計画

(1) 目標

- ・ 表現の仕方と効果を考えて、リライト作品の構想を練ることができる。
- ・ 話し言葉と書き言葉の違いや、共通語と方言の果たす役割について理解できる。

(2) 展開

過程	学習活動	教材資料	指導上の留意点	評価規準と評価方法 Cの状況の生徒への手立て
導入	1 学習計画表を見て、本時の目標を確かめる。	学習計画表	○学習課題や本時の目標を確認させる。	
	表現の仕方と効果を考えて、リライト作品の構想を練ろう			
展開	2 本文の2～3行を選んで、実際にリライトする。 3 主人公にする人物が同じであるグループで、リライトしたものを紹介し合う。 4 作品の雰囲気を作り上げる要素の1つである方言と共通語の使い分けについて理解する。	ワークシート② ワークシート④	○リライトしやすい部分を例示して生徒に選ばせるなどして、生徒が迷わずにすむようにしておく。 ○リライトの条件に合っているかどうか確認させる。 ○特に、条件Ⅲの「表現の仕方をまねる」ことについてできているかどうか、確認させる。 ○方言が生活の言葉であることを理解させたり、語り手が共通語で語ることの効果について考えさせたりする。 [効果の例] ・日本語を知っていれば、誰もが読める小説にしている。 ・語り手は主人公の少年の視点から語ったり、少年に寄り添ったりしているが、決して少年自身ではないことを示している。	言-1 話し言葉と書き言葉の違いや、共通語と方言の果たす役割について理解している。 【ワークシートの記述】 「盆土産」を全て方言で書いたものと本文とを比較したり、逆に全て共通語で書いたものと本文とを比較したりして、共通語と方言の果たす役割について考えさせる。
	5 リライトする部分や、リライトに取り入れる表現の工夫をを考えて、リライト作品の構想を練る。	ワークシート⑤	○主人公にした人物の行動描写がある部分を中心に、リライトする部分を決めさせる。	
まとめ	7 授業を振り返って自己評価をし、学習計画表に「学んだこと(学習のまとめや感想)」を記入する。 8 次時の見通しをもつ。	学習計画表 ワークシート⑤	○「学んだこと」の欄には、方言と共通語について学んだことも書くように指示する。 ○次時は実際にリライトすることを確認する。	